

第3回

SOLASIDO

「詩のあん唱」コンクール

全国学校図書館協議会が創立70周年記念事業として立ち上げた「あん唱運動の会」から生まれた(詩を声に出す喜び SOLASIDO)、「詩のあん唱コンクール」に全国からたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。応募作品数 185点の中から、入賞作品が決まりました。入賞16作品を発表いたします。

結果発表

金賞

愛知県 愛知教育大学附属岡崎小学校 4年 秋田 優

SOLASIDO は、空(SOLA ソラ)で詩(SI シ)を読む活動(DO ドウ)です!



QRコードからあん唱の動画がご覧になれます



「かなしみがやってきたら きみは」 エヴァ・イーランド ひとつひろみ かなしみは とつぜんくることがあるよ きみのあとをついてまわって べったりくっついてきたりする そしたら きみはいきがでなく なつちやうよね みえないところにかくしちゃうかね でもそんなことしたら きみのほうが...」

かなしみがやってきたら きみは [ほるぷ出版]

銅賞

愛知県 南山大学附属小学校 1年 大橋 理子

「下の前歯がぬけちゃった」立原えりか 歯がぬけた歯が 下の前歯がぬけちゃった 三年と八かげつ いっしょにくらしたなかだったのに 「ぬけたと行っちゃった 「あれえ?」 歯のない歯のないところは 小さなまど はひはひ風が はひはひ風が ふきこんでくる 歯がぬけた歯が 下の前歯がぬけちゃった 朝昼ばん 同じものを いっしょに食べてたなかだったのに 何もいわずに行っちゃった 「あれえ?」 歯のない歯のないところは ふしぎなまど はひはひしたのはひはひしたの さきつぽ見える



しゃべる詩あそぶ詩きこえる詩 [富山房]

銀賞

長崎県 長崎市立桜町小学校 3年 南部 妃七

「こだまでしょうか」金子みすゞ 「遊ぼう」ついでと 「遊ぼう」ついでと 「ばか」ついでと 「ばか」ついでと 「もう遊ばない」ついでと 「遊ばない」ついでと そうして、あとで さみしくなって、 「ごめんね」ついでと 「ごめんね」ついでと こだまでしょうか、 いえ、誰でも。

ピカピカ名詩 齋藤孝 著 [パイ インターナショナル]

特別賞

千葉県 聖徳大学附属小学校 4年 太田 琉維 「ねむれない夜に」太田琉維 自作



優秀賞

兵庫県 宝塚市立西山小学校 4年1年 塚本 大雅・雄大 「きょうだい」塚本大雅 雄大 自作



奨励賞

神奈川県 秦野市立南が丘小学校 2年 関野 菊子 「き」谷川俊太郎 ふじさんとおひさま [童話屋]



団体賞

栃木県 小山市立小山城南小学校 5年 隈本 香凛 「星めぐりの歌」宮沢賢治 ふたこの星 [岩崎書店]



団体賞

兵庫県 甲子園学院小学校 2年 「がってん音頭」海上和子原案 重水健介補作 みんなの群読脚本集 [高文研]



団体奨励賞

東京都 菅生学園初等学校 6年 「生きる」谷川俊太郎 詩集「つむぐ青年」 [サンリオ]



団体奨励賞

神奈川県 横浜市立飯田北いちよう小学校 「七歩詩」曹植 詩をこえるうた「漢詩」 [国土社]



審査員のコメント

谷川賢作 音楽家

もつともっと遊んでほしい。遊び心を、ウイットを見せて欲しい。人がどんなことをやっているか気にせずに「これが私だ」「うちのチームを見て、聞いて、感じて」と詩の朗読に意気込んでほしい!

文月悠光 詩人

回を重ねてきたためか、応募者の選ぶテキストが多様になり、どの作品も楽しく観ることができました。谷川俊太郎や金子みすゞのよく知られた詩のテキストから朗読の難しさを感じたり、逆に応募者から「こんな魅力的な詩があるんだ」と教わる場面もありました。応募者の弾む声から、その詩が好きなこと伝わってきました。自作の詩や野外で暗唱する形の応募が増え、その自由さが嬉しかったです。受賞作はどれも、詩の表現を磨けるための工夫が光っていました。

吉開菜央 映像作家ダンサー 振付家

今年は、身体の姿勢が声をつくるのだなということに改めて感じました。あえて肘をついてさざやくように声を出す人、応援団長のように足幅を広く取って叫ぶ人、声に合わせて、瞳の表情が微妙に変化する人など、みなさん詩の世界観に合った姿勢や表現を自然と取り入れられていてと感じました。せっかく映像作品を提出できるので、どういった環境で、どのような姿勢で読めるのか、工夫のしがいはまだまだありそうです。映像世界のシチュエーションづくりも詩を演出するひとつの手段として楽しんでみるのもいいかもしれません。

設置敬一 全国学校図書館協議会理事長

自作の詩が印象に残った。自然の中で思いつきりあん唱したり、楽器を効果的に使ったり、手振り身振りを入れるなど多くの工夫が見られた。過去の受賞作品を研究して、思いが伝わるように何回も練習している作品に出会えた。元気に声を出して好きな詩をあん唱することの楽しさや、喜びが一人でも多くの子どもたちに体験して欲しい。誰でも容易に動画を投稿できる時代になりました。更に、あん唱を楽しんで欲しいと思います。

富貴大輔 朝日小学生新聞編集長

このコンクールは、応募者があん唱している様子の映像を審査しています。回を重ねるごとに表現の自由さ、豊かさが増えているように感じます。発想力に感じさせられることが多かったです。ただ個人的な作品が増えると比較はしづらく、審査はますます難しくなってきました。うれしい悩みです。子どもたちには今後さらさら、詩やあん唱を楽しんでもらいたいです。